

とら
寅年生まれの人口（平成22年1月1日現在の概算値）

平成22年を迎えるに当たり、京都市の寅（とら）年生まれ（年男・年女）の人口を推計しましたので、その概要を紹介します。

1 寅年生まれの人口

平成22年1月1日現在の京都市の寅年生まれの人口（推計）は11万9910人で、総人口146.6万人に占める割合は8.2%となっています。男性は5万7080人で、男性の総人口69.7万人に占める割合は8.2%、女性は6万2830人で、女性の総人口76.9万人に占める割合は8.2%となり、女性の方が5750人多くなっています。

寅年生まれ人口を出生年別にみると、昭和49年生まれが最も多く2万2780人、次いで昭和25年生まれが2万2040人、昭和61年生まれが2万470人となっています。

男女別では、昭和61年生まれのみ男性が多く、その他の出生年では女性が多くなっています。また、年代が上がるにつれて、女性の割合が高くなる傾向にあります。

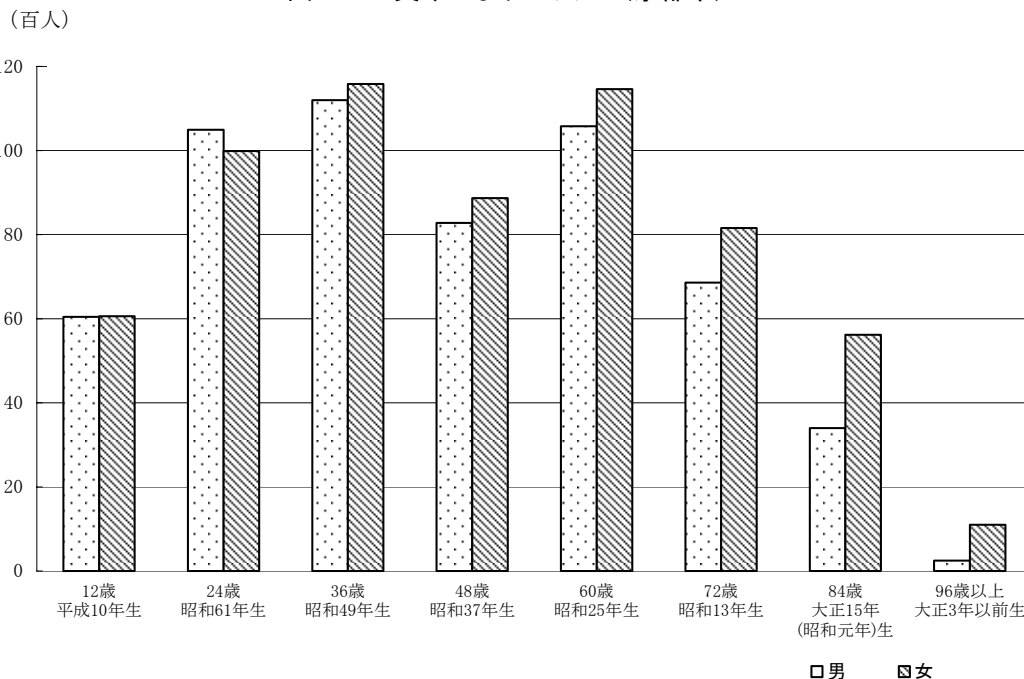
表-1 寅年生まれの人口（京都市）

生まれた年	年齢（誕生日を迎えたとき）	男女計		男		女		性比
		人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	
総数		119,910	100.0	57,080	100.0	62,830	100.0	90.8
平成10年	12歳	12,100	10.1	6,040	10.6	6,060	9.6	99.7
昭和61年	24歳	20,470	17.1	10,490	18.4	9,990	15.9	105.0
昭和49年	36歳	22,780	19.0	11,200	19.6	11,580	18.4	96.7
昭和37年	48歳	17,140	14.3	8,280	14.5	8,870	14.1	93.3
昭和25年	60歳	22,040	18.4	10,580	18.5	11,460	18.2	92.3
昭和13年	72歳	15,020	12.5	6,860	12.0	8,160	13.0	84.1
大正15年 (昭和元年)	84歳	9,020	7.5	3,400	6.0	5,620	8.9	60.5
大正3年以前	96歳以上	1,340	1.1	250	0.4	1,100	1.8	22.7

(注)「概算値」について

この資料は、平成21年12月1日現在の推計人口などを基に、平成22年1月1日現在の人口を推計して作成しています。このため、平成22年1月下旬公表予定の1月1日現在の推計人口とは結果が異なる場合があります。また、各表の数値を10人の単位で四捨五入していますので、内訳の合計が総数に一致しない場合があります。

図-1 寅年生まれの人口（京都市）



2 行政区別にみた寅年生まれの人口

寅年生まれの人口を行政区別にみると、伏見区が2万3030人で最も多く、次いで右京区（1万6550人）、左京区（1万3860人）と続き、区の人口の多い順となっています。また、区の総人口に占める割合は、上京区及び下京区が8.4%で最も高く、一方、東山区が7.9%で最も低くなっています。

男女別に人口をみると、中京区の男性（3950人）と南区の男性（4000人）以外は、区の人口の多い順となっています。また、南区を除くすべての区で、女性が男性より多くなっています。男女別に、寅年生まれが占める割合をみると、男性では上京区が8.7%で最も高く、北区が7.9%で最も低くなっています。女性では、中京区が8.4%で最も高く、東山区が7.6%で最も低くなっています。

表－2 行政区別の寅年生まれの人口

行政区	人口（人）			各区総人口に占める割合（%）		
	男女計	男	女	男女計	男	女
京都市	119,910	57,080	62,830	8.2	8.2	8.2
北 区	9,760	4,590	5,160	8.0	7.9	8.1
上京区	6,930	3,340	3,590	8.4	8.7	8.1
左京区	13,860	6,750	7,110	8.3	8.4	8.3
中京区	8,660	3,950	4,710	8.3	8.2	8.4
東山区	3,160	1,400	1,760	7.9	8.2	7.6
山科区	11,200	5,300	5,900	8.2	8.2	8.3
下京区	6,440	3,000	3,440	8.4	8.5	8.3
南 区	8,000	4,000	4,000	8.1	8.1	8.1
右京区	16,550	7,930	8,630	8.2	8.3	8.1
西京区	12,330	5,880	6,450	8.1	8.1	8.1
伏見区	23,030	10,950	12,080	8.1	8.1	8.2

3 十二支別の人口

京都市の人口を十二支別にみると、丑（うし）年生まれの13万4440人が最も多く、子（ね）年生まれの13万3170人、亥（い）年生まれの12万9870人が続き、寅年生まれは6番目となっています。上位3つの干支の生まれは、昭和22年から24年にかけての第1次ベビーブーム、昭和46年から49年にかけての第2次ベビーブームの世代を含んでいるため、人口が多くなっています。

表－3 十二支別人口

十二支別	人口（人）	総人口に占める割合（%）	人口順位	十二支別	人口（人）	総人口に占める割合（%）	人口順位
子（ね）	133,170	9.1	2	午（うま）	118,870	8.1	8
丑（うし）	134,440	9.2	1	未（ひつじ）	118,690	8.1	9
寅（とら）	119,910	8.2	6	申（さる）	115,820	7.9	11
卯（う）	118,930	8.1	7	酉（とり）	110,670	7.6	12
辰（たつ）	123,180	8.4	5	戌（いぬ）	117,740	8.0	10
巳（み）	124,260	8.5	4	亥（い）	129,870	8.9	3